

第 25 期・第 4 回地球惑星科学委員会 IGU 分科会 IAG 小委員会 議事要旨

日時：令和 5 年 6 月 19 日（月）16：00～17：15

会場：委員長宅（zoom によるオンライン会議）

出席者（敬称略・名簿順）：春山成子，小口 高，久保純子，齋藤文紀，鈴木康弘，長谷部徳子，岩橋純子，小口千明，柏谷健二，片岡香子，熊木洋太，小玉芳敬，島津 弘，羽田麻美，早川裕弐，松倉公憲，目代邦康，若狭 幸：計 18 名

欠席者（敬称略）：倉茂好匡，藁谷哲也：計 2 名

*要出席委員総数 20 名のうち 18 名の出席により会議は成立した。

資料：

1. 2023 年 4 月 IAG 役員会議事録
2. IAG_HIGHLIGHTS_Issue1_2023
3. モンゴル関係
4. トルコ大会関係
5. IAG 小委員会設置提案書
6. IAG 小委員会名簿

議事：

(1) IAG の動静について

小口委員長より，4 月 25 日開催の IAG 役員会（ハイブリッド開催）の内容について，議事録に基づき次の通り報告がなされた。

・会計について，IAG の銀行口座を現会計担当がいるスペインへ移行する手続きを進めていること，2022 年 9 月のポルトガル大会は参加者が多く余剰金は IAG 予算へ寄付されたことが報告された。

・現在 16 のワーキンググループが動いており，13 は過去からの継続，3 つが新設のものである。

・2026 年開催の IAG 本大会（NZ，クライストチャーチ）の日程が 2 月 9～13 日で決定し，現在ウェブサイトが公開中である。

・2023 年 9 月 12～14 日に開催されるトルコ大会（カッパドキア）はアブストラクト締切済であり，116 件の申し込み（複数申し込みも含む）があった。日本からは 7 件のアブストラクトが申し込み済。

・IAG_HIGHLIGHTS（ニューズレター）最新号に，JGU2023 年度秋季大会の国際シンポジウムや「地形の学校」に関するレポート（早川委員作成）が掲載され，日本における活動内容の周知を進めた。

・Young Geomorphologist（若手奨励）についてその定義に関する議論がおこなわれ，年齢

で定めるのではなく最終の学位取得後 7 年目までを対象とすることになった。また、現在 IAG から除名されているロシアについては、ロシア地形学会とは公式には連携せず、ロシアからの個人での応募や大会への個人参加は認める方針で対応を進めた。

- ・ EGU と関係を深めるための議論をこれから進める。

- ・ IAG では現在 59 団体 63 カ国が参加している。また、過去に参加していたが脱退した国や、現在参加を検討している国が併せて 24 カ国ある。新規加盟予定国の中で、エジプトでは新しい地形学に関する団体を作る流れがあり、その団体が IAG へ加盟する予定である。マレーシアは齋藤委員から紹介があった研究者へコンタクトし、IAG ウェビナーにも参加してもらい、現在加入の手続きを進めている。モンゴルの加入については鈴木委員と長谷部副委員長から働きかけをおこない、モンゴル科学アカデミーの地理学・地生態学研究所の研究者と話を進めている。

- ・ Geomorphica (著者・読者ともに支払いが発生しないオープンアクセスジャーナル: Diamond Access Journal) が新たにできるため、IAG が 700 ユーロを支援することになった。

- ・ IUGS が認定する Geological Heritage Site について、最初の 100 ヶ所のうち IAG が推薦したものが 3 ヶ所選ばれた。今後も 2 年に 100 ヶ所ずつ追加していく予定であり、IAG としても働きかけを進めるためのワーキンググループが立ち上げられた。齋藤委員から、日本ではジオパーク委員会が対応を請け負っており、日本から 2 ヶ所選ばれたことが報告された。今後については、関連団体との情報共有を進め、必要に応じて IAG 小委員会も加わっていくことを確認した。

- ・ Deep-time Digital Earth (DDE) のメンバーに IAG も加わっており、場合によると DDE から研究費が出る可能性があることが報告された。DDE の詳細については、今後動きがあれば情報を共有することを確認した。

- ・ ISC (国際学術会議) について、1,000~3,000 ユーロの会費を支払うことで IAG が加われる可能性があることが報告された (現在の参加団体の例としては、INQUA や国際地図学会など)。春山委員より ISC では昨年からの規約変更の動きがあり、会費支払いにより多くの学術団体に加入してもらう方向性が考えられると補足説明がなされた。また齋藤委員からは、ISC にはユニオンメンバー (INQUA 等) とアフィリエイトメンバー、国単位のメンバーの 3 種があり、ここではアフィリエイトメンバーが対象で選挙権の有無などの詳細は確認が必要な旨、説明がなされた。この件については詳細を確認し、内容によって日本からも加入を促す発言を進めることを確認した。

- ・ AGU との連携について、AGU 内に地形関係を扱うセクション (Earth and Planetary Surface Processes Sections) があり、小口委員長含む IAG 役員と本セクションメンバーが AGU シカゴ大会にて今後の連携に関する話を進めたことが報告された。

- ・ GSA と IAG との連携について、大会参加費の値引きの有無など確認を進める。

- ・ ジオダイバーシティ Day 2023 は、IAG では今年も引き続きウェビナーをおこなう予定

である。

(2) IAG の会費について

日本の IAG 会費支払いの手続きは, IAG 小委員会にて JGU が支払うことを決定した後, JGU へ依頼し支払いを進める流れである。会議において本手続き内容を確認し, JGU へ依頼を進めることが承認された。目代委員より, 他の関連学会で支払いに加わる団体がある場合は, 今後受け入れることも可能である旨コメントが出された。

(3) 今後の対応について

小口委員長より, 今期の IAG 小委員会は 9 月で任期が終了するため, 新規委員の候補者検討を進める旨説明があった。

(4) その他 (追加議題)

特になし